

資産運用会社の実務を身につける **2025年 夏季日程**

ファンドマネジメント講座

Zoomでのオンライン受講

<特別企画>

投資顧問考察

ー活用戦略と将来ビジョンー

投資顧問の役割が果す様々なバリエーションを紹介。
新たなビジネス展開へのヒントを掴みます。

<講義時間拡大>

【中級上級編】

投資信託約款の読み込み方

「法律的根拠」や「制度的背景」、
明文化されていない「業界の知見」を学ぶ。

<注目講座>

リサーチ・アナリスト業務

【企業価値評価・投資戦略のための無形資産評価手法】

企業の中長期戦略、定量スコアを用いたバリュエーションなど実務への応用まで、体系的かつ網羅的に学んでいきます。



日経ビジネススクール
NIKKEI BUSINESS SCHOOL

資産運用会社の実務を身につける

ファンドマネジメント講座

- アセットマネジメント会社(投信・投資顧問会社)を中心とした資産運用ビジネスの実務全般について学ぶ講座です。
- 年4回(四半期ごと)の定期開講なので、ご自身の長期スケジュールに沿って受講できます。
- 網羅的に理解したい方、専門実務をピンポイントでスキルアップしたい方、双方のニーズに応えます。

ファンドマネジメント総合基礎

アセットマネジメント会社の主な部門について、その概観と基本的な業務内容をわかりやすく解説します。それぞれの役割や組織全体での位置づけ、一連のオペレーションプロセスが把握できます。なお、本講義のみ、業務経験が比較的浅く、まずは必要となる基礎知識を固めておきたい、という方を対象にしています。

10:00～12:00	資産運用業界の概観と資産運用業務 ― フロント業務を中心として	120分	出水	5/13(火)	受講料 48,400円(税込)
12:00～13:00	コンプライアンス業務の基礎／業務概観	60分	和村		
13:50～15:20	バックオフィス業務の基礎／業務概観	90分	和村		
15:30～17:00	ミドルオフィス業務の基礎／業務概観	90分	和村		

トレーディング業務

バイサイドトレーディングについて網羅的に解説します。主に執行コンプライアンスの視点から、組織内での位置づけや役割、業務の流れ等の概観をはじめ、執行コストの抑制方法、資産別の売買における特徴やシステム、実務上の留意点、コンプライアンスを含めた組織運営など、実践に至るまでを、発注先であるセルサイドとの関係も交えて詳しく紹介します。

10:00～11:30	バイサイドトレーディングの概要 基本イメージ／業務の流れとミッション／執行環境の高度化と内外金融法制・規制見直し、他...	90分	西野	5/15(木)	受講料 48,400円(税込)
11:30～13:00	エクイティトレーディング実務: 取引・執行方法の種類／電子取引の活用事例／代替執行市場／外国株式取引の実務、他...	90分			
14:00～15:00	債券、外国為替、トレーディング、及び短期資金運用実務: 取引概略／国内債券取引／外国債券取引／外国為替取引／短期資金取引、他...	60分			
15:00～17:00	執行コンプライアンスとトレーディング関連事項: グローバル潮流の変化／執行コンプライアンス関連/ブローカー選定・評価/システム・インフラ、他...	120分			

資産運用システム構築戦略

資産運用システムに関して網羅的に学習します。前半では標準的な機能やデータの配置・構成を概観し、実際に構築・導入する際の留意点を解説します。後半はこれまでの変遷と現状から、今後トレンドがどのように変化していくのか、また、システム投資を行うにあたり、コストや効果の測定、大規模なシステム刷新のタイミングなど、重要ポイントについて説明します。

10:00～11:30	資産運用システムの全体構成概略とバックオフィス・システム・運用実績の記録と管理／基本データ構成／インターネットからクラウドへ／外部データ交換、他...	90分	横山	5/16(金)	受講料 48,400円(税込)
11:30～13:00	フロントオフィス・システムとオルタナティブ資産への対応: 伝統的資産のフロントオフィス・システム／IBOR/ABOR視点の変化がもたらすシステム構造の変化、他...	90分	内田		
14:00～15:30	ミドルオフィス・システムと運用成果データの管理: 運用成果の分析と表明・報告／EUCとデータ・ウェアハウス／モダン・データ・ハブの発展、他...	90分	横山		
15:30～17:00	IT業務と資産運用システムの実装計画: IT業務の概要／データ・マネジメント業務／システムライフサイクルとシステムの実装計画、他...	90分			

ミドルオフィス業務

運用評価業務、主に定量評価について学びます。リターンとその要因分析、およびリスクについての基本概念を把握した上で、プロが実際にを行っているパフォーマンス測定の実務を、さまざまな計算事例に沿って、ひとつひとつ丁寧に、詳しく解説します。計算式入りのエクセルを提供いたしますので、後日あらためての復習も可能です。

10:00～11:30	運用評価に必要な基礎知識: リスクリターンから要因分析まで	90分	右田	5/19(月)	受講料 48,400円(税込)
11:30～13:00	パフォーマンス測定の実務I: 残高・取引明細表／キャッシュフローによる収益の調整／GIPS準拠、他...	90分			
14:00～15:30	パフォーマンス測定の実務II: 日次厳密法と修正ティーツ法、複合効果／要因分析の誤差項／ブレアデス累積方式、他...	90分			
15:30～17:00	パフォーマンス測定の実務III: 個別銘柄別寄与度／多段階要因分析／オルタナティブ運用の要因分析、他...	90分			

AI運用 ― 資産運用におけるAI開発とデータサイエンスのデザイン ―

資産運用業務におけるAI技術適用の実際を学びます。ここ数年でAI技術は様々な分野に用いられるようになりましたが、資産運用への適用については、金融市場の特殊性ゆえに、克服すべき課題がいくつか存在しています。これらの課題を整理し、解決法を概観しながら、AIの研究開発はどのように進めていけばよいか、実例を紹介しながら考察していきます。

10:00～11:20	資産運用におけるAI: 資産運用とサイエンス／AI(人工知能)とは何か／資産運用において機械(AI)は人間と何が違うのか、他...	80分	長尾	5/22(木)	受講料 48,400円(税込)
11:20～13:00	データサイエンスのデザイン戦略: 運用システムのデザイン／仮説演繹と帰納法による戦略構築／科学/パラダイムと社会/Closing remarks、他...	100分	西村		
14:00～16:00	AI運用: AI・機械学習を用いた投資戦略／機械学習のアルゴリズムと金融市場への応用、他...	120分			
16:00～17:00	AI運用の開発プロセス: モデルの概要／最適パラメータ決定／リスク管理とモデル評価/AI運用戦略評価での留意点、他...	60分			

バックオフィス業務【投信編】

投資信託委託会社における管理業務を体系的に学習します。最初にオペレーションの全体像を把握し、日々の業務である、①約定・受渡しに関する業務、②追加・解約に関する業務、③基準価額の計算に関する業務、から、④決算に関する業務、までを一通り理解した上で、今後の業界課題として認識しておくべき点を明確化します。

10:00～12:00	投資信託のしくみと委託者の役割: ファンドの形態と関係法人／日々の業務の流れ、他...	120分	東中川	5/23(金)	受講料 48,400円(税込)
13:00～15:00	計理仕訳: (基準価額の計算、株式約定、債券約定、外国投資勘定、追加・解約約定)＋ミニ演習、他...	120分			
15:00～16:30	決算関連業務(分配原資の計算)、外国投信を組入れたファンズ・オブ・ファンズの留意点、他...	90分			
16:30～17:00	投信業界における最近の話題と今後の課題: SINGLE NAV／ARFP／パーゼルIII／ラップ型ファンド、他...	30分			

講師

プロフィール

AI運用
― 資産運用におけるAI開発とデータサイエンスのデザイン ―

西村 方斗英
日興アセットマネジメント
商品開発部
クオンツグループ

ファンドマネジメント
総合基礎

バックオフィス業務
【投信編】

出水 里香
野村アセットマネジメント
人事部長

東中川 教明
ゴールドマン・サックス・
アセット・マネジメント
ファンド・コントローラーズ部長

ファンドマネジメント
総合基礎

債券ポートフォリオ
マネジメント業務
― 債券運用の理論と実務

和村 雅義
エクセスネット
シニアコンサルタント

横谷 宏史
ピクティ・ジャパン
執行役員 商品本部長

ファンドマネジメント
総合基礎

リサーチ・アナリスト業務
【企業価値評価・投資戦略の
ための無形資産評価手法】

工藤 協一
パーテックス・インベストメント
ソリューションズ
常務取締役 リスク管理・
コンプライアンス部長

三浦 毅司
元クレディスイス証券 株式調査本部
株式調査部 グラフ・プレゼンター/
日本和財総合研究所
代表取締役CEO

トレーディング業務

バックオフィス業務
【投資顧問・投資一任編】

西野 俊介
センゾ投信
上級顧問
運用管理等担当

和村 雅義
エクセスネット
シニアコンサルタント

資産運用システム
構築戦略

ポートフォリオマネジメント
業務 ― 差別化に注目して ―

横山 陽一
野村総合研究所
資産運用ソリューション
事業本部
シニアチーフ・エキスパート

柏原 延行
丸三証券 常務執行役員
投資信託部長
チーフ・グローバル・
ストラテジスト

資産運用システム
構築戦略

リスク管理業務

内田 昌孝
野村総合研究所
資産運用ソリューション
事業本部
シニア・マイスター

工藤 協一
パーテックス・インベストメント
ソリューションズ
常務取締役 リスク管理・
コンプライアンス部長

ミドルオフィス業務

【中級上級編】投資信託
約款の読み込み方
― 「法律的根拠」や「制度的背景」、
明文化されていない「業界の知見」を学ぶ ―

右田 徹
元 イボットソン・
アソシエイツ・ジャパン
データ管理部長

宮園 喜明
元 三井住友信託銀行
受託業務推進部
投信受託課 主任調査役

AI運用
― 資産運用におけるAI開発とデータサイエンスのデザイン ―

投資顧問考察
― 活用戦略と将来ビジョン ―

長尾 慎太郎
楽天投信投資顧問
第三運用部

和村 雅義
エクセスネット
シニアコンサルタント

債券ポートフォリオマネジメント業務 ― 債券運用の理論と実務

ベンチマークに対するグローバル債券アクティブ運用に焦点を当て、ポートフォリオ・マネジャーが実際にどのような業務を行っているのか、市場の分析から戦略立案、ポートフォリオにおける戦略の実行、債券売買までの実務につき解説します。また、昨今の低金利環境下における債券運用の課題や最近のトレンドも紹介します。

10:00～11:30	債券運用の実務に必要な基礎知識: 債券と債券価格／イールドカーブ／スプレッド／債券のリスク	90分	横谷	5/26(月)	受講料 48,400円(税込)
11:30～13:00	経済指標及びマーケットの見方: 価格変動要因／経済指標サイクル／債券運用に必要な市場データ／市場リスク環境、他...	90分			
14:00～15:10	債券運用戦略の実行: 債券投資の収益源泉／超過収益獲得戦略／イールドカーブ戦略／債券取引の実際、他...	70分			
15:10～17:00	変化する市場環境と債券運用のトレンド: 金利の歴史／グローバル債券運用のトレンド／為替ヘッジを巡る議論／ESG債券投資、他...	110分			

リサーチ・アナリスト業務【企業価値評価・投資戦略のための無形資産評価手法】

重要とされながらも、ほとんど手付かずになっている知的財産・特許情報について、入手・読解するノウハウを身につけ、企業の中長期戦略、または市場で認識されていない業界トレンドを推し量る力を高めます。定量スコアを用いたバリュエーションへの落とし込み方法など実務への応用まで、体系的かつ網羅的に学んでいきます。

10:00～12:00	無形資産／知財に関する基礎知識: 無形資産とは／諸外国の制度／特許庁サイトの使い方と内容の読み解き方、他...	120分	三浦	5/27(火)	受講料 48,400円(税込)
12:00～13:00	特許情報と投資判断: 特許と業績・株価との関係／ネガティブイベントチェックで必須な情報／有効性の判断／留意点	60分			
14:00～14:30	最近の無形資産に関する話題: DX／対話型AI(ChatGPT)	30分			
14:30～16:30	定性価値および定量価値評価の手法: 評価項目／スコア評価／非上場企業評価／業界トレンド予測への応用、他...	120分			
16:30～17:00	金銭的(定量)価値評価事例とミニ演習: 青色発光ダイオード／オブジーボ	30分			

バックオフィス業務【投資顧問・投資一任編】

総合基礎で学んだバックオフィスの役割を果たすため、実際どのように実務を行っているか、日々のファンド管理を概観し、約定 ⇒ 受渡 ⇒ 残高作成 ⇒ 権利配当付与 ⇒ 時価評価 ⇒ レポート作成、の流れに沿って、豊富なサンプルを用いながら詳しく説明します。

10:00～12:00	バックオフィス業務の概観: ファンド属性設定と銘柄属性設定／ファンド管理の日常・月次業務の流れ、法定帳簿等の電子化、他...	120分	和村	6/4(水)	受講料 48,400円(税込)
12:00～13:00	約定処理と株式議決権行使の実際: 約定処理(国内資産)／約定処理(海外資産)／為替紐付／株式の議決権行使、他...	60分			
14:00～15:30	ブックイングと信託報告書との照合手順: ファンドの報告概要／ファンドの照合実務／決算処理／データブックイングの方法	90分			
15:30～17:00	ディスクロース資料と運用報告の実際: 運用報告書の種類／運用報告の目的／法定書面／運用報告の実際／投資顧問料業務	90分			

ポートフォリオマネジメント業務 ― 差別化に注目して ―

資産運用会社において、運用業務はどのような背景があり、実際の運用業務がどのように行われているか、個別資産のポートフォリオの運用手法に加え、異なる資産や異なる戦略を組み合わせる方法など、幅広く講義のテーマとし、具体的に各運用手法の特徴や実務上の留意点をわかりやすく解説します。

10:00～11:30	資産運用会社の現状と運用の基礎知識: 業界の現状と今後の見通し／商品の基礎知識／取扱商品の概要 ― メリット、デメリット、批判	90分	柏原	6/5(木)	受講料 48,400円(税込)
11:30～13:00	どのようなプロダクトが必要なのか: 家計の資産運用の現状と定着しない理由／運用会社の課題と変化／有望なプロダクト／差別化の源泉	90分			
14:00～15:30	株式アクティブ運用を例として: 運用スタイル、哲学、プロダクトの差別化／意思決定プロセスの確立／運用スタイル／成長性・バリュエーション分析、他...	90分			
15:30～17:00	為替とデリバティブの利用: プロダクト理解のための理論(為替編)／プロダクト理解のための理論(デリバティブ編)	90分			

リスク管理業務

これまでの顧客資産の運用リスク管理にとどまらず、資産運用会社にも保険会社・銀行等と同様に自己資本のリスク管理が求められるようになりました。こうした環境下、資産運用会社に求められるプリンシプルベースのリスク管理姿勢に関して、その概要と具体的手法について基本から詳しく解説します。

10:00～11:30	リスク管理と内部統制: 概説／失敗事例から学ぶ／心理バイアスの合理的判断への影響／リスク管理のポイント、他...	90分	工藤	6/6(金)	受講料 48,400円(税込)
11:30～13:00	運用リスク管理: 運用リスクの種類と管理方法／VaR計算における各種設定／外部委託先管理の具体的な方法、他...	90分			
14:00～15:30	オペレーショナル・リスク管理: オペレーショナル・リスクの種類／管理の手法／CSA／定量化と課題、他...	90分			
15:30～17:00	統合リスク管理: 顧客資産と自己資金での違い／統合リスク管理の実務／目指すべき自己資金のリスク管理態勢、他...	90分			

【中級上級編】投資信託約款の読み込み方 ― 「法律的根拠」や「制度的背景」、明文化されていない「業界の知見」を学ぶ ―

投信約款は投資信託の根幹ともいえますが、一般的に体系立って学習する術がないこともあり、分かり辛く、とっつきにくいと敬遠されるくらいがあります。本講義では、苦手意識を和らげるために実際の約款を教材の柱に据え、基本をきちんと押さえた後、実務上でよくある質問に答えるように条文を噛み砕いていく、腑に落ちるような説明をしています。

09:45～11:30	約款を読み込むための基本知識: 投信約款とは何か／株式投信と公社債投信／証券投資信託／有価証券、他...	105分	宮園	6/16(月)	受講料 48,400円(税込)
11:30～13:10	本文からポイントを学ぶI: 事務委託／信託金／期間／勧誘／NAVの計算／受益権分割／受益権の帰属と譲渡、他...	100分			
14:10～15:50	本文からポイントを学ぶII: 運用指図の範囲／投資制限／混雑寄託／信託財産登記／資金借入と立替／計算期間、他...	100分			
15:50～17:30	本文からポイントを学ぶIII: 信託報酬総額／収益分配／買値口記載／解約／約款変更／反対受益者／運報／公告、他...	100分			

投資顧問考察 ― 活用戦略と将来ビジョン ―

投資顧問の仕組みを活用して運用を行うビジネスは業界多岐に広がっています。本テーマでは、投資顧問の役割が果て様々なバリエーションを紹介、投資顧問スキームが驚くほど大きなポテンシャルを秘めていることを実感し、新たなビジネス展開へのヒントを掴みます。

10:00～11:30	投資助言・投資一任の伝統的ビジネス: 投資助言のビジネスの世界／投資一任のビジネスの世界	90分	和村	6/27(金)	受講料 48,400円(税込)
11:30～13:00	投資信託ビジネスにおける投資顧問の活用: 国内投資信託の外部委託／国内投資法／外国投資信託	90分			
14:00～15:30	投資事業組合・LPS・プライベートエクイティでの投資顧問の展開: 国内投資事業組合／LPS／プライベートエクイティ	90分			
15:30～17:00	ラップ・SMAでの投資顧問の展開: ラップ／SMA／ラップとSMAの違い／富裕層へのプライベートバンキング	90分			

Zoomでのオンライン受講

※ このご案内には2025年3月1日時点での予定です。日程・講師・内容等は都合により変更させていただきます場合がございます。
※ ファンドマネジメント講座はオリジナルテキストを使用します。テキスト代は受講料に含まれます。

ファンドマネジメント総合基礎

5/13火

講師	Session 1 & 2：出水 里香 野村アセットマネジメント 人事部長			
	Session 3：和村 雅義 エックスネット シニアコンサルタント			
	Session 4：工藤 協一 パーテックス・インベストメント・ソリューションズ 常務取締役 リスク管理・コンプライアンス部長			

アセットマネジメント会社の組織体系上、柱となる部門について、基本的な業務内容と職務上必要な基礎知識を1日で学びます。それぞれ業務概観をしっかり解説しますので、各ビジネスラインの役割と連携、一連のオペレーションプロセスについて一通り理解することができます。本講義は実務面での経験の浅い方を対象にしていますが、経験が長い方でも、全体像をあらためて把握したい場合に最適のプログラムです。また、投資運用の関連業界の方には、各論ご受講前の導入としてお勧めしています。

Session 1 120分 資産運用業界の概観と資産運用業務 ― フロント業務を中心として

1. 資産運用とは ― 自分で投資するか、プロに任せるか	▶セルサイドとバイサイド ▶投資銘柄に対するコーポレートガバナンス活動	⇒ バックオフィス業務に求められるもの ・コンプライアンス業務
2. 資産運用業界の概観 ・投資顧問ビジネスとは ― オーダーメイド型資産運用 ・投資信託ビジネスとは ― レディメイド型資産運用 ・資産運用にかかわる法令諸規則	⇒ ポートフォリオマネジメント ▶分散投資の理論 ― アセットアロケーション ▶CAPM ▶パッシブ運用 ▶アクティブ運用 ― 株式運用の場合と債券運用の場合 ▶オルタナティブインベストメント	⇒ コンプライアンス（ブレーキ） ⇒ 法務（アクセル） ⇒ 内部監査
3. プロフェッショナルとしての資産運用とは ・フロント業務（営業） ⇒ 投資顧問ビジネスにおける営業 ⇒ 投資信託ビジネスにおける営業 ・フロント業務（運用） ⇒ 資産運用の Plan - Do - See ⇒ リサーチ ▶エコノミスト／ストラテジスト／アナリスト／クォンツアナリスト／クレジットアナリスト	▶トレーディング ▶トレーディングの仕組みと最良執行 ・ミドル業務 ⇒ リスク分析 ⇒ パフォーマンス分析／リスク・リターン の総合評価 ・バックオフィス業務	4. 資産運用会社にとってのシステム ・フロント用／ミドルオフィス用／バックオフィス用／コンプライアンス用 ・STP (Straight Through Processing)
		5. 資産運用会社の社会的位置づけ

Session 2 60分 コンプライアンス業務の基礎と概観

1. 総論：資産運用会社のコンプライアンスとは ― 法令遵守？	・コンプライアンス態勢 ― 体制と態勢の違い	・当局によるモニタリング ― 金融商品取引業者等のあるべき姿
2. フィデューシャリー・デューティー（受託者責任）	・コンプライアンス部の各業務へのかかわり ⇒ フロント業務（営業）とのかかわり ⇒ フロント業務（運用）とのかかわり ⇒ ミドル業務とのかかわり ⇒ バックオフィス業務とのかかわり ⇒ 全般的な業務	
3. 各論：コンプライアンス業務の実際 ・コンプライアンス体制 ― コンプライアンス部だけがコンプライアンス業務を行っているわけではない		

Session 3 90分 バックオフィス業務の基礎と概観

1. バックオフィス業務の全体像 ・バックオフィスの業務項目 ・投資信託の業務サイクルと業務項目 ・投資顧問の業務サイクルと業務項目 ・役割分担とリーガル・ストラクチャー ・外国籍／国内籍投信比較 ・投資信託と投資顧問のビジネスの範囲比較	2. データプロセッシング ・約定フローと約定データ項目 ・データの作成プロセスとサイクル ・データ蓄積の目的 ⇒ 運用 ⇒ モニタリング ⇒ 受託銀行の計理データと照合	⇒ 社外向け報告、営業用資料の元データ ⇒ 社内管理の基礎データ
	3. 運用報告書 ・投資信託報告書の種類 ・投資顧問報告書の種類 ・投資顧問報告書サンプル	

Session 4 90分 ミドルオフィス業務の基礎と概観

1. 運用哲学と運用プロセス	・パフォーマンスの計測ルール	7. リスク管理 ・資産運用会社における各リスクの定義 ・市場リスク管理の方法 ・リスク量管理
2. 資産運用会社におけるミドルオフィス業務 ・ミドルオフィス業務の位置付けと主要業務	・ユニバース（ピアグループ）比較 ・スタイル分析／執行コスト分析 ・ヘッジファンド等で使用されるリスク測定	8. リスク考慮後のパフォーマンス分析 ・代表的なリスク考慮後のリターンの尺度
3. パフォーマンス評価の目的 ・運用委託者・運用受託者、それぞれの立場での違い ・パフォーマンス評価に求められる要件	5. パフォーマンスの要因分析 ・プリンソン要因分析理論 ― 要因分解が成立する理由	9. ミドルオフィス業務の課題
4. 定量評価 ・定量評価の方法 ・相対リターン（対ベンチマーク）	6. パフォーマンスの定性評価 ・運用委託者の視点と資産運用会社 5 つの“P”の視点	

トレーディング業務

5/15木

講師	全セッション：西野 俊介 セゾン投信 上級顧問 運用管理等担当
----	---------------------------------

日々巨額の売買発注を行っている資産運用会社のトレーディング業務内容は意外に知られていません。本講義ではバイサイドトレーディングについて網羅的に解説します。主に執行コンプライアンスの視点で、組織内での位置づけ役割、業務の流れ等の概観から、執行コストの抑制方法、資産別の売買における特徴やシステム、実務上の留意点、コンプライアンスを含めた組織運営など実践に至るまで、発注先のセルサイドとの関係も交えて詳しく紹介します。この分野で起こっている最新情報を得る貴重な機会として、売買実務者はもとより、監査法人、金融市場関連の情報ベンダーやフロント系システム開発会社勤務の方、証券会社のトレーディング部門の方にもお勧めするプログラムです。

Session 1 90分 バイサイドトレーディングの概要

1. トレーディング業務の基本イメージ ・トレーディング業務の流れ、及び部門の位置づけ	③国内外の金融法制改定・規制見直しのインパクト ・手数料の分離表記・支払いを規定した2018年1月施行のMiFID2看板規制“コミッション・アンバンドリング”の誤算（リサーチカバー減退で規制見直しのEU、英国、2023年7月から特例廃止の米市場とのギャップ・米最高裁、SEC行政処分権限否定（2024年6月）の波紋・フェアディスクロージャールールが問う“リサーチ情報”の『質』と『価値』、及び二つの課題と懸念（開示姿勢減退？）	化の行き着く先と機関投資家への影響 ・ライン証券の証券サービス縮小公表と100万口座突破のPayPay証券を見るZ世代開拓競争の厳しさ ・米SECも調査「ゼロ手数料」の原資の裏側（注文回送とリベート授受スキーム“ペイメント・フォー・オーダー・フロー”
2. バイサイドトレーディング部門のミッション ・ファンドマネージャーとの役割分担と連携 ・バイサイドにおける最良執行の定義 ― 価格の妥当性判断、説明責任等 ・狭義の執行コストと広義の執行コストの認識 ・執行コスト・ベンチマーク対比とコスト削減への取組 ― 執行コスト分析ツールの活用	★上記潮流変化にさらされたセルサイドビジネススキームの変容と生き残りバトル ・金融規制強化によるポジション縮小と、大規模金融緩和で変わる証券会社のエクイティビジネス収益構造と大きな落とし穴（プライム・プロカレッジビジネスの甘い蜜と露呈した過大レバレッジ・与信リスク） ・6年連続アナリスト総合ランク1位の大和、リサーチは一部外注でソリューションビジネスやウエルスマネジメントへのシフトを進める野村…等々、興味深い外資、日系大手証券各社の重点営業策の違い ・米・日で進む個人向け手数料（投信・株式）ゼロ	4. 金融行政の基本目標・方針 ― “最良執行”に関する諸外国との対比 ・“金融育成庁”を標榜する監督行政の「金融検査・監督の考え方と進め方」に基づく最近の各施策 ・2024年5月国会可決の金商法、その他法律一部改正案（“エンゲージメント”強化、“TOBルール”見直し等々） ・日、米、欧対比で見るバイサイドの最良執行義務及び国内証券各社の“最良執行方針”最新改定内容 ・2024年7月金融審議会報告（プロダクトガバナンス確立等に向けてファンド組成会社に「補充原則」追加 ・2024年8月内閣官房策定の「アセットオーナー・プリンシプル」の目的と背景 ・業界リーディング企業や行政、取引所にまで拡がる金融不祥事の由々しき事態

Session 2 90分 エクイティトレーディング実務

1. 取引の種類と執行方法 ・エクイティ取引の種類 ― ハイタッチ執行とロータッチ執行の分類 多様化する執行手法（AIの活用領域等）と、それぞれのメリット比較	3. 電子取引の活用事例 ・DMA、DSA ・アルゴリズム取引及び、アルゴ・ホイール（Algo Wheel）活用による業務のセミオートマチック化	5. 外国株式取引の実務 ・時差のある市場における発注、約定処理のタイミングと取引手法 ・各国市場毎に異なるルールの把握と取引時留意事項（2024年5月実施の北米株T+1への対応） ・外国株運用の3形態 ・外国為替の手当て ・外国株信用取引解禁 ・欧米運用会社におけるグローバル資産トレーディング手法の傾向、及びアジア株取引におけるブローカー評価
2. 取引の実際 ・執行プラン立案、及び実際の発注と執行プロセスのモニタリング ・ポートフォリオのリバランスとバスケット取引執行時の留意点（ブラインド・バスケット等含む）	4. 取引所外流動性（代替執行市場）へのアクセス ・PTSとダークプール、及びこれらを活かすSOR（Smart Order Routing） ・オーダー秘匿性の観点から機関投資家も神経を尖らす、HFTのダークプール及びPTS利用態様（レイテンシー・アービトラージ等の実態）	

Session 3 60分 債券、外国為替、トレーディング、及び短期資金運用実務 ― エクイティトレーディングとの差異を中心に解説 ―（下記項目に関する詳細はテキスト巻末に記載）

1. 取引の概略	連報告書（社債発行時コベナンツ付与、等々）	
2. 国内債券取引 ・債券売買業務の流れと実務上の留意点 ・セカンダリー売買のポイント（国債、事業債）と新発債取引の実務 ・日銀政策変更の思惑から一時増加した“フェイル”や、社債発行、投資への影響等々、最近の事例解説 ・2024年7月に日証協が公表した社債市場活性化関連	3. 外国債券取引 ・取引時の留意点（時差、決済サイクル、為替の手当て、新発債起債時のPot方式とリテンション方式、等々） ・従来のボイス取引に加え年々増加する電子取引や、ポートフォリオ取引、債券ETFの活用実態	・ヘッジ為替における留意事項、その他の留意事項と、NDF取引 ・2024年5月実施の北米株T+1導入で懸念される東京外為T+0対応の諸リスク等
	4. 外国為替取引 ・実需為替（カバード為替）における留意事項	5. 短期資金取引 ・日銀マイナス金利解除、利上げに伴う余資運用の変化（コール／ON物のディーリング、ブローキング例等々）

Session 4 120分 執行コンプライアンスとトレーディング関連事項

1. グローバル潮流の変化と、国内市場へのインプリケーション ・MiFID2の看板規制“コミッション・アンバンドリング”（株式委託手数料の内訳開示）の見直しを余儀なくされたEU、英国、各金融当局の当初の思惑と誤算、及び国内公的年金の“ソフトダラー”に対するスタンス ・コミッション・シェアリング・アレンジメント（CSA）の内容と、“日本版CSA”実現の難しさ ・金融不祥事処分権限における行政と司法のせめぎあい（米最高裁 vs SEC、国内行政処分後の裁判事例）	値縮小対象銘柄TOPIXミッド400拡大の影響） ・PTSによる信用取引認可（2019年8月）によるシェア拡大後、更なる好影響が期待された2023年1月施行の政省令改正（個人向け取引のプライス重視執行義務付け）の現状 ―“Comply or Explain”― ・楽天HDの新規参入で4社体制となる国内PTSの今後の展望	・ブローカー選定規則の枠組みと選定委員会の設置ポリシー ・評価項目と評価実務、及び関連部門間の評価ウエイトの考え方 ― 悩ましい“リサーチ”評価の対応等 ・評価結果レビューの考え方と留意点（運用会社もブローカーから“評価”されている） ・債券、為替取引ブローカーの評価と選定（何故、債券・為替業者のスコアリングが一般的ではないのか） ・発注停止・発注先リスト除外措置の考え方と一般的なルール（最近の当局告発事例への対応と併せて解説）
2. 国内市場における執行コンプライアンス関連共通課題と最良執行への取り組み ・HFT（高頻度・高速取引）唯一の日系ファームを含む登録業者の素顔と内外当局による規制、及び登録業者の少なからぬ離脱に見る厳しい競争の実態（金融庁によるHFTへの監督指針内容等含む） ・PTSの現状と拡大への課題（2023年6月東証の呼	3. 執行コンプライアンスと社内牽制機能の実際 ・牽制・監視機能と売買監査の基本項目 ・執行コンプライアンス・チェックのポイント ― 特に法令違反回避に向けた留意点 ・金商法上の禁止行為等（“相場操縦”と看做されて証券取引等監視委員会に告発された最近の事例解説） ・トレード・モニタリングの実務（株式IPO、新発債応募ルールのポイント等含む）	5. トレーディングシステム・インフラ（各種ツールの主要機能の違い、特徴等も解説） ・OMSとEMS（選定・導入のポイント） ・電子取引ツールと執行分析ツール ・執行コンプライアンス関連ツール ・“AIトレーディング”の期待と現実（アカウンタビリティの壁等々）、RegTech（レグテック）の進化
9. ミドルオフィス業務の課題	4. ブローカー選定・評価ポリシーと実務	

資産運用システム構築戦略

5/16金

講師	Session 1:	横山 陽一	野村総合研究所	資産運用ソリューション事業本部	シニアチーフエキスパート
	Session 2 & 3:	内田 昌孝	野村総合研究所	資産運用ソリューション事業本部	シニア・マイスター
	Session 4:	横山 陽一	野村総合研究所	資産運用ソリューション事業本部	シニアチーフエキスパート

金融業界におけるITの進化はめざましく、グローバル化の進展に伴い高度化、複雑化しています。とりわけ専門性の高い資産運用業界においては、あらゆる部門で多種多様なITが利用されており、資産運用会社の総合的なIT環境に関する見識を高めていくことが経営の課題、業界の課題として浮上しています。本講義では資産運用会社のシステムの全体像を概観したうえで、ITシステムの実装時のポイントやIT戦略立案上のポイントを紹介していきます。IT業務従事者、ITベンダーの方のみならず、経営サイドの方にも参考にしていただけるプログラムです。

Session 1 90分 資産運用システムの全体構成概略とバックオフィス・システム

現在資産運用業界で使われている標準的なシステム機能の配置・構成や、そこで取り扱う基本的なデータの構造を概観し、その中で最も古くからシステム化されてきたバックオフィス・システムについて、成り立ちから今後の変化の方向性について解説します。

1. バックオフィス・システム

— 運用実績の記録と管理

・管理内容と役割

・位置づけ

・主な機能内容

・投資信託と投資顧問の違い

・欧米と日本の業務フォーマーションの違い
2. 資産運用の基本データ構成

・資産運用システムにおける標準的なデータ・スキーマ(例)

・ファンド・口座・ポートフォリオ
3. インターネットからクラウドへ

— システム環境の変化がもたらす業務プロセスの変化

・資産運用システムに変化をもたらす要因

・クラウド・サービスとは？

・データ連携手段の近代化と業務改革

・業務プロセスの共有

4. 外部とのデータ交換

・ネットワークを用いたSTP

・位置づけ

・主な外部ネットワーク

・(補論) 社外システムとのデータ接続における留意点
5. マーケット情報の管理

・位置づけ

・データの種類と利用方法

・(補論) マーケット・データのコスト問題

Session 2 90分 フロントオフィス・システムとオルタナティブ資産への対応

伝統的資産の運用執行をサポートするフロントオフィス・システムの役割と機能・データ構成を概観し、そのベースとなるポジションの管理視点の変化について解説します。また、伝統的資産と異なるオルタナティブ資産の管理のための機能について解説します。

1. 伝統的資産のフロントオフィス・システム

・位置づけ 案件作成から執行・その確認

・機能構成図

・機能概要とシステムの効果

・システム化の効果

・機能イメージ

・求められる要件

・フロントオフィス・システムのデータ範囲

・フロント・ミドル・バックの必要データの違い
2. IBOR/ABOR視点の変化がもたらすシステム構造の変化

・資産運用システムの管理データ範囲の変化

・バックオフィス・システムの本来の役割と現状

・近年のシステム構成

— アカウンティング・レス・バックオフィス

・IBOR/ABORとは

・IBOR導入による業務フローの変化

・IBORに関する共通認識の必要性

・機関投資家の意識変化
3. オルタナティブ投資の拡大がもたらす必要機能の変化

・オルタナティブ投資について

・オルタナティブ投資のフロント・オフィス機能 位置づけ 運用対象の発掘と絞り込み

・オルタナティブ投資のフロント・オフィス機能 概要

・オルタナティブ投資のバック・ミドル・オフィス機能 伝統的資産と異なるプロセスの管理

・伝統的資産と異なるデータ管理

Session 3 90分 ミドルオフィス・システムと運用成果データの管理

運用成果情報の管理と分析を行うミドルオフィス・システムの機能構成を概観し、運用成果をはじめとした各種データの管理について、EUC(エンド・ユーザ・コンピューティング)やDWH(データ・ウェアハウス)に着目して解説します。

1. ミドルオフィス・システム

— 運用成果の分析と表明・報告

・位置づけ

・機能構成

・機能概要

・求められる要件
2. EUCとデータ・ウェアハウス

・資産運用におけるEUCの位置づけ

・基幹系システムからEUCへのデータ開放

・EUCによる業務プロセス構築時の留意点

・データ・ウェアハウスを中核としたEUC環境の整備

・ユーザ・インタフェースの工夫

・データ内容の理解度の向上策

・データ構造の工夫
3. モダン・データ・ハブへの発展

・企業を超えた運用成果データの共有

・(補論) 複数サービス・システム間の整合性確保

<補足> 他業態の資産運用システム構成

- ・資産管理会社

・機関投資家(プラン・スポンサーなど

— 委託運用を中心とした構成)

・機関投資家(生損保など

— インハウス運用をメインとした構成)

Session 4 90分 IT業務と資産運用システムの実装計画

最初に、ITセクションの担う「情報管理」業務の概要についてご説明します。また、システム投資の時期とバランス、アウトソーシングとシステム化の比較等、システム投資に関して考慮すべきポイントを挙げて解説します。

1. IT業務の概要

・システムの構成要素

・調達手段の変化

・クラウド・サービスの範囲

・IT部門の主要業務(例)

・システムの安定的な稼働 ①障害対策

・システムの安定的な稼働 ②災害対策
2. データ・マネジメント業務

・データ・ウェアハウスの陳腐化問題

・データ・マネジメント組織(DMO)の必要性

・DMOの業務を支援するデータ・ウェアハウスの機能
3. システムライフサイクルとシステムの実装計画

・システムの導入目的の明確化

・IT化しない選択肢 — アウトソーシング

・システム刷新と人材育成

ミドルオフィス業務

5/19月

講師	全セッション:	右田 徹	元 イボットソン・アソシエイツ・ジャパン	データ管理部長
----	---------	------	----------------------	---------

資産運用会社はパフォーマンスがすべてといっても過言ではありません。本講義は運用評価業務、主に定量評価について学びます。リターンとその要因分析、およびリスクについての基本概念を把握した上で、プロが実際に行っているパフォーマンス測定の実務を、さまざまな計算事例に沿って、ひとつひとつ丁寧に、詳しく解説します。また、講義で紹介される計算方法については、関数式入りのエクセルファイルをご提供いたしますので、後日あらためての復習が可能です。

Session 1 90分 運用評価に必要な基礎知識

1. リターン

・収益率(リターン)の計算

— 収益と収益率の違い

・収益の実現部分と未実現部分

— 実現損益とトータル・リターンの違い

・収益率の幾何リンク

— 単利と複利の違い

・投資金額の変化と収益率

— 時間加重収益率と金額加重収益率の違い

・コンボジット収益率

— 収益率の単純平均と加重平均の違い
2. 要因分析

・対ベンチマーク比較

— 絶対収益率と相対収益率の違い

・ポートフォリオの業種別構成

— ポートフォリオの評価と業種別評価の違い

・超過収益率の要因分解

— 業種配分効果と銘柄選択効果の違い

・個別銘柄寄与度

— 銘柄寄与度と業種内銘柄寄与度の違い

・運用プロセスによる測定方法の違い

— ボトムアップ法とトップダウン法の違い
3. リスク

・リターンとリスクのトレード・オフ

— 高リスク銘柄と低リスク銘柄の違い

・分散投資によるリスク低減

— 集中投資と分散投資の違い

・リスクの計算

— 絶対リスクとトラッキング・エラーの違い

・リターンとリスクの総合評価

— 超過収益率による評価とIRによる評価の違い

Session 2 90分 パフォーマンス測定の実務 I

1. 貸残高・取引明細表からリターン計算まで

・月次貸借対照表と月次損益計算書／運用実績表

・時間加重収益率計算明細書／現金残高表

・各計算数値例とポイント解説
2. パフォーマンス要因分析の実務 I

・リターン計算におけるキャッシュフロー

・キャッシュフローによる収益の調整

— キャッシュフローの立て方(事例解説)

・時間加重収益率の種類と計算式
- ⇒ 日次厳密法

⇒ 複利内部収益率リンク法

⇒ 複利内部収益率リンク簡便法

⇒ 修正ディーツ法

⇒ ディーツ法

・グローバル投資パフォーマンス基準(GIPS)

— GIPSの理念と準拠／主な必須基準

・日次厳密法リターン

— 理論上のリターンと実務上の比較

測定に最適な計算方法とは何か
- ・日次厳密法リターンの計算式

— キャッシュフロー発生のみなし方によって計算パターンは様々に

・買い始めと売り切り時のリターン

— 買い始め、売り切り時の双方に対応できる計算方法とは

Session 3 90分 パフォーマンス測定の実務 II

1. パフォーマンス要因分析の実務 II

・日次厳密法リターンと時価評価

— 不正確な時価評価によってリターンがゆがむ具体例

・日次厳密法と修正ディーツ法の比較

— 修正ディーツ法リターンの特徴とゆがみの例

・コンボジット・リターン

— 途中解約などで1年間を通して存在しなかったファンドのリターン算出法
- ・超過リターン

— 対ベンチマーク超過リターンを算術的でなく幾何的に計算する利点

・プリンソン要因分析理論の基礎

— Brinson-Fachlerモデルの計算式と要因分解が成立する理由

・複合効果

— 要因分析表における複合効果の表示方法

・要因分析の誤差項

— 要因分析の誤差の理由は必ず説明できる
- ・ポートフォリオ誤差

— ポートフォリオ誤差を小さくするには

・ベンチマーク誤差

— ベンチマーク誤差を小さくするには

・リンク誤差

— 2期間におけるリンク誤差の比較例

・ブレアデス累積方式

— ブレアデス累積方式のメリットと理論的な意味

・個別銘柄寄与度

— 株式ポートフォリオでの測定例

Session 4 90分 パフォーマンス測定の実務 III

1. パフォーマンス要因分析の実務 III

・複数セクターによる要因分析

— セクター切り口の違いによる銘柄選択効果の意味の違い

・複数セクターによる多段階要因分析

— サブ・セクター構成比の正規化と国内債券の要因分析における例

・要因分析における構成比の正規化

— ベンチマーク構成比の正規化と正規化を行わない場合の数値例

・オフバランスを含む運用の要因分析

— オフバランスを用いた場合と用いなかった場合で効果の違い
- ・オルタナティブ運用等の要因分析

— さまざまな運用スタイルにおけるリターンを要因分解

どのような運用スタイルであっても、要因分析ロジックを構築するための頭の働かせ方はただひとつ

・リターンとリスクの総合評価

— リスク調整後リターンとは

・標準偏差とシャープ・レシオ

— シャープ・レシオの計算方法

・トラッキング・エラー

— 推定トラッキング・エラーと実績トラッキング・エラー
- ・実績トラッキング・エラーの計算方法

— 平均2乗誤差と標準偏差、それぞれの利点と数値例

・インフォメーション・レシオ

— 数値例と評価方法について

・インフォメーション・レシオの計算方法

— 計算方法の違いと問題点、t検定との関係

・負のシャープ・レシオとインフォメーション・レシオ

— 評価方法における様々な考え方

AI運用 ― 資産運用におけるAI開発とデータサイエンスのデザイン ―

5/22木

講師	Session 1 & 2：長尾 慎太郎 楽天投信投資顧問 第三運用部
	Session 3 & 4：西村 方斗英 日興アセットマネジメント 商品開発部 クオントツグループ

本講義では、資産運用業務におけるAI(人工知能)技術の適用の実際を学びます。

ここ数年でAI技術は様々な分野に用いられるようになり、既に一部の分野で目覚ましい成果をあげつつあります。しかし、金融分野においてもその可能性が目まぐるしく目されているものの、資産運用への適用については、金融市場の特殊性ゆえに、いくつかの克服すべき課題が存在しています。

Session 1 80分 資産運用におけるAI

1. 資産運用とサイエンス	・ 金融市場を理解する際の課題と解決法	・ 機械 (AI) は人間の各機能の上位互換ではない
・ 科学哲学パラダイムの変遷を振り返る	2. AI (人工知能) とは何か？	・ AI (人工知能) の定義とAIの欠点
・ 科学で未来の予測は可能か？	・ AI (人工知能) の定義とAIの欠点	・ 機械によるデータドリブンな資産運用の歴史
― 金融市場の予測は当たるのか？	3. 資産運用において機械 (AI) は人間と何が違うのか？	
・ 金融市場は複雑な人間活動システム	・ おおむね間違え人間の判断	
― 複雑なシステム二種		

Session 2 100分 データサイエンスのデザイン戦略

1. 運用システムのデザイン	・ 運用の専門知識獲得の問題に対するソリューション	・ 日本ではAI運用は法的な問題を伴う
・ 投資戦略の開発	・ リプリケーション (クローン) 戦略	・ 資産運用業におけるイノベーションのジレンマ
・ アルゴリズム運用戦略の基本的構造	・ プロセス解析アプローチに適した戦略	・ 技術的な課題の前に多くの困難がある
・ アルファモジュール (Hints)	・ リプリケーション戦略の評価と検証・改善	4. Closing remarks
・ 投資戦略立案における方法論 (演繹と帰納)	・ モデルの汎用性と今後の課題	・ まとめ
・ 投資戦略立案における科学哲学 (演繹と帰納)	3. 科学パラダイムと社会	・ 資産運用ビジネスにおける人工知能とデータサイエンスの可能性
	・ 日本ではデータに基づく科学は受け入れられにくい	
2. 仮説演繹と帰納法による戦略構築		

Session 3 120分 AI運用

1. AI運用とは ― そもそもどのようなものを指しているのか？	3. 代表的なモデル	5. ランダムフォレスト ― 決定木を複数用いる
・ 様々なデータソース	・ 回帰モデル	・ アンサンブル法とアルゴリズム
― オルタナティブ・データの活用	― 回帰分析とファクターリターン	・ ランダムフォレストを用いた投資戦略
・ 機械学習のイメージ	・ スパース推定	6. ディープラーニング (CNN)
― 講師あり学習と講師なし学習	― ビッグデータ時代の推定方法	・ ニューラルネットワーク
・ 伝統的クオントツ運用との関係	・ 正則化法 ― 正則化項の影響	・ 活性化関数と損失関数の最小化
― 適切な手段を用いることが大切	・ Ridge Regression	・ 誤差逆伝播法
・ 分析対象となる金融市場の特性	・ Lasso ― 変数選択と問題点	・ コンボリューションとプーリング
	・ 金融データへの応用	・ ディープラーニングでチャートを学習
2. 機械学習イントロダクション	・ Rapach et al	・ パラメータ設定とモデル化
― 機械学習を用いた分析の流れ	― 日本株での分析と結果	― ファクターリターンとバックテスト
・ 分析のデザインとよく用いられる前処理の例	・ 変数選択の例	7. テキストマイニング
・ モデルの決定と学習 ― オーバーフィッティングとアンダーフィッティング	・ Graphical Lasso	― 資産運用業界での応用
・ バイアスとバリエーション	― 資産間の相関を可視化	・ 金融におけるテキストマイニング
・ 5-Fold Cross Validation / Time Cross Validation	4. クラスタリング (K-means 法)	・ アルファソースとしてのテキストマイニング
・ 評価	・ 投資信託のクラスタリング ― 戦略の分散やマネージャー管理への応用	・ 運用者を補助するためのテキストマイニング
	・ 決定木 ― アルゴリズムの例と注意点	

Session 4 60分 AIを用いた運用戦略の開発におけるポイント

1. モデルの概要を検討	3. リスク管理とモデル評価
2. 解釈性の問題	4. AI運用戦略を評価するときに注意すべき点

バックオフィス業務【投信編】

5/23金

講師	全セッション：東中川 教明 ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント ファンド・コントローラーズ部長
----	---

本講義では、投資信託における管理業務を体系的に学習します。

最初にオペレーションの全体像を把握し、①約定・受渡しに関する業務、②基準価額の計算に関する業務、③決算に関する業務、④追加・解約に関する業務を一通り理解した上で、今後の展開を踏まえながら、業界課題として認識しておくべき点を明確

化していきます。

同じ投資運用業でも投資一任とは異なる“ごんべんけいり”と呼ばれる独特の計理仕訳など、グローバルの観点からもユニークな点にスポットを当て、わかりやすく紹介します。

Session 1 120分 投資信託のしくみと委託者の役割

1. 投資信託の法令と規則	・ マイナス金利対応	・ 受益証券の発行・管理と受益証券券面について
2. ファンドの形態と関係法人	・ 追加・解約	・ 基準価額適用日および、元本の増減
・ 契約型と会社型	・ 約定処理	・ ブラインドルール／希薄化
・ 投資信託・投資法人の分類	・ 時価評価	7. 法定帳簿の管理
― それぞれの純資産総額及び、ファンド本数	・ 報酬及びファンドの諸費用と計上方法	・ 法定帳簿の種類と電磁的方法による保存
・ 公募と私募の違い	・ 利金・配当金・コーポレートアクション	8. レポート作成業務
・ 契約型ファンドの分類と具体例	・ 基準価額の照合	・ 財務諸表
・ マザーファンドとベビーファンド	― 相違の原因をいかに迅速に発見するか	・ 運用報告書
― ファミリー方式のメリット	5. 自社算出と受任銀行に業務委任する場合の違い	・ 特別勘定のしおり
3. 基準価額計算及び追加・解約の流れ	・ 受任銀行に計算業務を委託する場合と主な役割分担	・ BISリスクアセットレポート／諸官庁・投信協会へのレポート
4. 投資信託に関するオペレーション業務	6. 投信振替制度	9. その他
・ 1日の業務の流れ (約定関連業務、追加解約関連業務、基準価額計算関連業務)	・ 投信振替制度移行後の相関図	・ ファンドの監査 (公募投信／私募投信) と価格調査
・ 投資信託に関するシステム	― STP とDVP の実現	
・ 資金繰り照合	・ 振替投信移行後の非DVP 決済の資金の流れ	

Session 2 120分 計理仕訳 + ミニ演習

1. 計理仕訳 (主な計理処理について基本から例題を用いて解説)	・ 先物 (買建&売埋め)	・ 追加約定／解約約定 (株式投信・公社債投信／単位型・追加型)
・ 基本的な考え方 ― 複式簿記と日計表	・ ファンド・オブ・ファンズ	・ 追加処理前と処理後の日計表
・ 基準価額の計算方法	・ 外貨建資産 (為替差金、回金)	・ 解約処理前と処理後の日計表
・ ファンド設定時	― 邦貨日計表と外貨日計表	・ 追加信託処理明細表の解説
・ 株式約定	2. 計理仕訳ミニ演習	・ 解約金処理明細表の解説
・ 債券約定	・ 国内株	・ 勘定科目に関する解説
	・ 国内債券	

Session 3 90分 決算関連業務／外国投信を組入れたファンド・オブ・ファンズの留意点

1. 決算関連業務	・ 外国所得税除税があった場合の分配金支払い ― 税制改正が影響	・ 外国投信の評価
・ 一般的な分配金決定の流れ	・ 分配のトレンド	・ 外国投信からの分配金受取の問題点
・ 追加処理後の分配原資	2. 外国投信を組入れたファンド・オブ・ファンズの留意点	・ ファンド・オブ・ファンズ設定のメリット
― 基準価額が元本を上回っている場合／下回っている場合	・ 概観図による解説	・ 外国投信を組入れる際の留意点
・ 解約処理後の分配原資	・ ファンド・オブ・ファンズの形態と特徴	― 要件の裏返し、資金繰り etc…
・ 分配金原資の計算方法 (原資の内訳)	・ 公募ファンド・オブ・ファンズのルール	・ スナッププライスとフェアバリュー
・ 分配原資の一般的な引き落とし順序	・ 外国投信を組入れる際の主な要件	・ スウィングプライシング (Swing Pricing)
・ 運用報告書での開示強化	・ 組入れる外国投信のしくみ	― 信託財産保留金のような効果
・ 収益分配金計算書の解説	― 分配可能額算出の仕組みを理解する (ユニットトラスト／コーポレートファンド)	・ 国籍による違いのイメージ

Session 4 30分 投信業界における最近の話題と今後の課題

1. 基準価額の一元化	3. 最近のトピック	・ パーゼルIII
― DUAL NAV とSINGLE NAV	・ SMA /ラップ口座へのファンド提供	・ アジア地域ファンドパスポート (ARFP)
2. マテリアリティポリシー	・ 積立NISA, DC におけるデフォルトファンドの設定	

債券ポートフォリオマネジメント業務

― 債券運用の理論と実務

5/26月

講師 全セッション：横谷 宏史 ピクテ・ジャパン 執行役員 商品本部長

資産運用会社の債券アクティブおよびパッシブ運用において、ポートフォリオ・マネジャーが実際にどのような業務を行っているのか、市場の分析から戦略立案、ポートフォリオにおける戦略の実行、債券売買までの実務について解説します。講義では債券運用実務において必要な債券の基礎知識のほか、どのような視点で経済指標や市場を見て運用戦略を立案し、それをポートフォリオに反映させるのか、債券ポートフォリオ・マネジャーの視点を少しでも感じていただけるよう講義を進めます。また、金利の歴史を振り返るとともに、2000年代に入ってから低金利、そして最近の金利上昇下における債券運用の課題や最近のトレンドを紹介します。債券のポートフォリオ・マネジャーを目指している方だけではなく、広く運用関連の業務に従事している方々に、債券ポートフォリオマネジメント運用業務の実際を知っていただくことを目的とします。

Session 1 90分 実務に必要な基礎知識

- | | | |
|--------------------------------|--------------------|-------------|
| 1. 債券 | ・経過利息 | ・スプレッドの決定要因 |
| ・債券の経済効果とベイオフ | ・オファービッド | ・CDS |
| ・債券属性の見方（ブルームバーク画面から債券属性を読み取る） | 3. イールドカーブ | 5. 債券のリスク |
| | ・イールドカーブの決定要因と変動要因 | ・様々な市場リスク |
| 2. 債券価格 | 4. スプレッド | ・証券固有のリスク |
| ・債券価格と金利の関係 | ・国債以外の債券種別 | |
| ・デュレーションとコンベクシティ | （政府関連債、社債、資産担保債等） | |

Session 2 90分 経済指標およびマーケットの見方

- | | | |
|------------------------|--|----------------------|
| 1. 債券価格の変動要因 | ・より重要なのはパーセプション・ギャップ | 5. 債券運用の立場から必要な市場データ |
| 2. 主要国の金融政策の見方 | 4. ケーススタディ（1） | 6. 市場リスク環境の見方 |
| 3. 経済指標サイクルの見方 | ・米国の経済指標サイクルを例に、重要指標のパーセプション・ギャップを予測する | |
| ・マーケットエコノミストの視点で見る経済指標 | | |

Session 3 70分 債券運用戦略の実行

- | | | |
|-------------------------------|-----------------|--------------------------|
| 1. 債券運用の基本 | 3. 超過収益獲得のための戦略 | ・イールドカーブの変化をとらえる |
| ・パッシブ運用とアクティブ運用 | ・デュレーション戦略 | 6. イールドカーブ戦略とケーススタディ（3） |
| ・パッシブ運用の戦術 | ・国別配分戦略 | ・ダンベルブレット戦略を例に |
| ・アクティブ運用の戦術 | ・イールドカーブ戦略 | 7. 債券取引の実際 |
| ・運用パフォーマンス評価の基本 | 4. イールドカーブの変動要因 | ・各国国債の特徴 |
| ・リスク管理の基本 | ・イールドカーブの変動要因 | ・権利落ち |
| 2. 債券の収益源泉 | ・主成分分析 | ・インデックスのデュレーション・エクステンション |
| ・キャピタルゲインとインカムゲイン、方向性とボラティリティ | ・イールドカーブの形状変化 | ・債券取引の実際 |
| | 5. ケーススタディ（2） | |

Session 4 110分 変化する市場環境と債券運用のトレンド

- | | | |
|------------------------------|----------------------|--------------------|
| 1. 金利の歴史を振り返る | ・「純化」と脱・時価ウェイトインデックス | ・ドル円ヘッジコストと為替ベースス |
| ・世界の金利の歴史 | ・高利回り債券への投資 | 4. ESG債券投資の潮流 |
| ・2000年代の日本、米国 | ・スプレッド物債券の特徴 | ・株式投資との違い |
| ・1940年代の米国の経験 | ・新興国債券 | ・社会的リターンか、経済的リターンか |
| ・マイナス金利とキャッシュ運用、マイナス金利下の債券投資 | 3. 為替ヘッジをめぐる議論 | ・ESG債券投資の類型 |
| 2. グローバル債券運用のトレンド | ・為替レートの決定理論 | ・信用格付けとESG評価 |
| ・2000年代以降の債券運用における様々な取り組み | ・為替ヘッジに関する論点整理 | ・グリーンボンドの課題 |
| ・「総合化」とグローバル総合指数 | ・国内債券とヘッジ外債の関係 | ・バリ協定と気候変動投資 |
| | ・TBAダラーロール戦略 | ・ESG債券投資のトレンド |

リサーチ・アナリスト業務

【企業価値評価・投資戦略のための無形資産評価手法】

注目講座

5/27火

講師 全セッション：三浦 毅司 元 クレディ・スイス証券 株式調査本部 株式調査部 ヴァイス・プレジデント／日本知財総合研究所 代表取締役 CEO

企業価値評価手法は今やすでに爛熟期にあり、無形資産評価は数少ないブルー・オーシャン分野です。無形資産の重要性が叫ばれてから久しいもの、実際の株価評価において無形資産、特に知財の価値が十分に反映されているとは言い難いのが現状ですが、その原因は、機関投資家サイドで知財情報を分析するスキルが不十分だからなのです。知財情報の多くは公式に公開されており、誰でも閲覧調査することが可能です。知財は企業の長期的な戦略の下で権利化されることが多く、その内容を読み解くノウハウさえ身につければ、他に先んじて対象銘柄の中長期戦略、または市場で認識されていない業界トレンド（アノマリー）を推し量ることができ、リサーチ力向上のための付加価値を生む強力な源泉になりえます。逆に知らないと大きな不利になりかねません。

さらに2021年6月に改訂されたコーポレートガバナンス・コードには知財情報が加われました。機関投資家は、投資情報を得るために企業が開示する知財情報をしっかりと分析し、また投資先に戦略的な知財活用を促す役割が期待されていると言えます。本講義は、知財評価、中でもとりわけ特許の評価手法にスポットを当て、基礎知識から、特許情報の投資判断への応用、特許の定性的・定量的（金銭的）価値評価の手法とスコアを用いたバリュエーションへの落とし込み方法など実務への応用まで、体系的かつ網羅的に学んでいきます。

現在、無形資産担保の法制化が進められており、無形資産の評価体系が整備されることが想定されます。近い将来、知的財産そのものが投資対象になる可能性もあり、今のうちに体系的な理解を深めておきたい方に最適の講義です。

Session 1 120分 無形資産／知財に関する基礎知識

- | | | |
|----------------------|---------------------|-----------------------|
| プロローグ | ・知的財産の種類と特徴 | 3. 諸外国の制度 |
| ・青色発光ダイオードの特許価値はいくら？ | 2. 無形資産の評価 | ・各国の制度、歴史的な流れ |
| 1. 無形資産、知的財産とは | ・無形資産の評価（いい特許、悪い特許） | 4. 知財情報の入手方法と内容の読み解き方 |
| ・無形資産の種類と特徴 | ・無形資産担保の考え方 | ・特許庁サイトの使い方、特許情報の読み方 |

❖ コーヒーブレイク1：ノーベル賞受賞者が出遅れた特許出願（ゲノム編集）

Session 2 60分 特許情報と投資判断

- | | | |
|----------------------|--------------------------|----------------------|
| 1. 投資対象としての、株式と特許の違い | 3. ネガティブイベントチェックに必須な特許情報 | ・特許の賞味期限の測り方 |
| ・マーケット、プレイヤー | ・侵害訴訟によるダメージ | ・安定した開発の重要性（パテントクリフ） |
| 2. 特許と業績・株価との関係 | ・特許調査の重要性 | 5. その他、留意点 |
| ・特許価値からアウトパフォーム企業を探す | 4. 有効性判断 | ・マイナスの特許価値 |
| ・特許と業績の相関が高い業種・低い業種 | | |

❖ コーヒーブレイク2：いきなり！ステーキの栄枯盛衰

Session 3 30分 最近の無形資産に関する話題

- | | |
|-------|--------------------|
| 1. DX | 2. 対話型AI (ChatGPT) |
|-------|--------------------|

Session 4 120分 特許の定性的価値評価および金銭的（定量的）価値評価の手法

- | | | |
|------------------------|---------------------------|---------------------------------|
| 1. 個別特許の定性的評価手法 | ・マーケットアプローチ | ・赤字続きのベンチャー企業、急成長中のスタートアップ企業の評価 |
| 2. スコアによる定性的価値評価（簡易評価） | ・コストアプローチ | ・特許情報による業界トレンド予想 |
| ・評価項目 | ・インカムアプローチ | ・個別銘柄のセクター内での相対優位性比較 |
| ・簡易評価の有効性と使用機会 | 4. 非上場企業評価および業界トレンド予測への応用 | |
| 3. 特許の金銭的（定量的）価値評価手法 | | |

❖ コーヒーブレイク3：日本製鉄のトヨタ提訴

Session 5 30分 特許の金銭的（定量的）価値評価事例とミニ演習

- | | |
|---------------|-----------|
| 事例1）青色発光ダイオード | 事例2）オプジーボ |
|---------------|-----------|

❖ コーヒーブレイク4：本庶 佑氏 vs. 小野薬品

バックオフィス業務【投資顧問・投資一任編】

6/4 水

講師 全セッション： 和村 雅義 エクسسネット シニアコンサルタント

資産運用会社のバックオフィス業務は、フロント業務に比べ、一般に紹介される機会がほとんどないのが実状ですが、バックオフィスの各業務は組織の中で極めて重要な役割を担っています。この講義では、主に投資一任業における管理業務を体系的に学んでいきます。前半の業務概観では実際にファンドを日々、どのように管理しているのか、データがどのように使われているのかを約定処理と併せて、細部に至るまで詳しく紹介。後半ではバックオフィスの最も大きな役割である信託報告書との

照合作業の実務、さらに、運用報告とディスクローズ関係の業務についても、わかりやすく解説します。実務者のみならず、管理業務の全体構造を把握したいシステムソリューション企画・開発・営業担当の方にとっても充実の内容です。なお、本講義は中級レベルのみの内容になりますので、基本から学びたい方は「総合基礎」3限目の「バックオフィス業務の基礎」をあらかじめご受講されることをお勧めします。

Session 1 120分 バックオフィス業務の概観とファンド管理の実務

1. バックオフィス業務の概観
— ファンド管理システムを中心とした業務概観

・インプットとアウトプット／ファンド管理データの要件
2. ファンド属性設定・銘柄属性設定

・ファンド属性の確認
— 正確なファンド情報入手／手続きの事前確認／事前確認の主な留意点
- ・ファンド属性の登録
— 正確なファンド属性の登録／ファンド属性の種類／ファンド属性の項目

・銘柄属性登録および時価情報入手
— 国内証券／外国証券および為替レート
3. ファンド管理(日次・月次等の流れ)

・日次業務の流れ
・月次・四半期業務の流れ
4. 法定帳簿等の電子化及び法定に基づいた保存

・法定帳簿(運用報告書)の保存
・信託報告書
・その他保存必要書類(議決権行使の招集通知、判定書、指図書)
・その他保存必要書類(日次・月次処理における証跡書類)

Session 2 60分 約定処理と議決権行使の実際

1. 約定処理(国内資産)

・国内資産約定処理／一般振替DVP制度
2. 約定処理(海外資産)

・海外証券の決済 — 決済と保管の形態とコントラクチュアル決済／外国カストディ決済のスケジュール／現地決済資金のフロー／外国証券約定処理
- ・為替約定管理／決済とフェイル管理／為替紐付け／カバー&ノンカバー経理

・ノンカバー取引における外貨預金と未収・未払金／外貨建証券ノンカバー取引の仕訳

・約定ベース・ノンカバー処理(外国株式：売り)
3. 株式議決権行使

・議決権行使の対象ファンド
・議決権行使の方法と日本株式の議決権行使
・日本株式の議決権行使(ICJ等利用例)／外国株式の議決権行使(ISS等利用例)

Session 3 90分 ブッキングと信託報告書との照合手順

1. ファンドの報告概要

・運用報告書と信託報告書
・ファンドの会計基準
・実現主義と発生主義
・時価総額の構成要素
・各種利回り計算要素
・時間加重収益率(簡便法／修正ディーツ法／厳密法)
2. ファンドの照合実務

・照合・突合とは
- ・照合準備のための補充データの入力
・補充データの種類とキャッシュ残高の照合
・相違の概略の把握(B／S・P／L照合)

・銘柄別簿価残高照合と売買損益(キャピタル)の修正
・簿価相異の典型的ケース
・銘柄別時価残高と未収収益の照合
・報告書の最終チェック
3. 決算処理

・ファンド毎の計理基準と決算処理
- ・元加と収益払い出し(簿価会計／時価会計)
・決算処理での留意点

4. データ・ブッキングの方法

・日次データ・ブッキングの目的
・キャッシュフロー関係データとキャッシュ残照合
・取引の約定データ
・時価、未収、権利処理
・銘柄別簿価等残高照合
- ## Session 4 90分 ディスクローズ資料と運用報告の実際
1. 運用報告書の種類

・法定書面
・運用会社フォーマット
・顧客指定フォーマット

2. 法定書面

・金融商品取引法42条の7【運用報告書の交付】
・金融商品取引法27条の24【株券保有状況通知書の作成及び交付】

3. 運用報告の目的

・基本はPLAN→DO→CHECK→ACTION

4. 運用報告の実際

・報告のタイミング
・運用報告書の構成例
・四半期レポートニング
・市況概況と投資行動
・資産収益状況
・リスク／リターンと要因分析等

・リスク分析結果
・超過リターン銘柄別寄与度

5. 投資顧問料業務

・様々なバリエーション
・請求業務と運用会社の管理会計

ポートフォリオマネジメント業務 — 差別化に注目して —

6/5 木

講師 全セッション： 柏原 延行 丸三証券 常務執行役員 投資信託部長 チーフ・グローバル・ストラテジスト

講師は、みずほフィナンシャルグループの資産運用会社で株式運用部長、企業調査部長、運用戦略部長、執行役員など、運用部門で30年近く勤務し、現在は販売会社の商品選定部門で様々な運用会社と接点を持っています。本講義では、「運用会社の中での経験」、及び「運用会社の取引相手として運用会社を外からみた視点」から、差別化に注目して

ポートフォリオ・マネジメントについて解説します。具体的な内容としては、「①資産運用会社の現状と運用の基礎知識」、「②どのようなプロダクトが必要なのか」、「③株式アクティブ運用を例として」、「④為替とデリバティブの利用」について、わかりやすく解説します。

Session 1 90分 資産運用会社の現状と運用の基礎知識

1. 資産運用業界の現状と今後の見通し

・2つの箱(投資顧問と投資信託)とその特徴
・資産運用会社の経営戦略(本当に成長産業なのか?)

2. 商品の特徴を理解するための基礎知識

・マーコビッツのポートフォリオセレクション
・効率的市場仮説

・シャープによるベータ値の導入、CAPM
・アノマリーの存在
・行動ファイナンス理論

3. 取扱商品の概要

— メリット、デメリットに注目、どのような批判があるか?
・バッシブ運用 — ただ乗り? —

・アクティブ運用
— ベンチマークに勝つためには? —

・バッシブとアクティブの関係は?

・クオンツ運用 — 伝統的なファンドマネジメントとの相違点 —

・オルタナティブ運用
— 最も注目を集める投資手法? —

Session 2 90分 どのようなプロダクトが必要なのか

1. 家計の資産運用の現状

・100年安心年金の仕組み(年金制度自体は持続可能、しかし…)
・限定的な家計の資産運用 — 預金への偏重 —
・預金へ偏重しても問題なかった? — 重要なことは購買力の維持 —

2. 家計の資産運用が定着しない理由

・仮説 — 金融リテラシー or 株式市場の不振 or 円高 or 金融サービスの担い手の問題 —

3. 運用会社の課題と変化

・機関投資家ビジネスと家計向けビジネス等
・資産運用業高度化プログレスレポート2022、2023
・多すぎるプロダクトと新規設定

4. 有望なプロダクトは?

・インデックス(スマートベータ)?
・預金代替?
・アクティブ?

5. 差別化の源泉は

・アセットクラス
・定量面
・定性面

Session 3 90分 株式アクティブ運用を例として

1. 運用スタイル、哲学、プロダクトの差別化

・一般論
・大規模な会社と小規模な会社

2. 意思決定プロセス確立の重要性

3. 運用スタイル

4. 成長性分析

・段階

・定量
・収益モデル
・経営戦略分析

5. バリュエーション分析

・マルチプル型
・割引型
・その他

6. その他の投資判断の材料 — マクロ、セミマクロの環境を理解することの重要性

7. リスクモデルによるリスクコントロール

8. アクティブ運用の評価方法

Session 4 90分 為替とデリバティブの利用

1. プロダクト理解のための理論：為替編

・為替取引とは(スポットと為替予約取引、先渡し、先物)
・為替取引によるプレミアム(金利平価説の観点から)

2. プロダクト理解のための理論：デリバティブ編

・ペイオフパターン図
・オプション(その種類と特殊な条項)
・具体的な商品例

・キャッシュフロー
・オプションの価格はどうのように決定されるのか?(モンテカルロの仕組みとブラックショールズモデル)
・オプションが現物市場に与える影響(デルタの概念とデルタヘッジ)

アクティブ運用

パッシブ運用

クオンツ運用

11 FUND MANAGEMENT Summer 2025

FUND MANAGEMENT Summer 2025 12

リスク管理業務

6/6金

講師 全セッション： 工藤 協一 パーテックス・インベストメント・ソリューションズ 常務取締役 リスク管理・コンプライアンス部長

資産運用会社におけるリスク管理業務を概観します。
内部統制態勢が整備されるなか、リスク管理業務においても高度化が進んでいます。これまでの顧客資産の運用リスク管理にとどまらず、資産運用会社にも保険会社・銀行等と同様に自己資本のリスク管理が求められるはじめています。こうした環境下、資産運用会社に求められるプリンシプルベースのリスク管理態勢に

関して、その概要と具体的手法について解説します。
本講義はリスク管理業務に初めて従事する方、もしくはまだ日の浅い方、リスク管理部門と関連のある部署にお勤めで、リスク管理業務の全体像を掴みたいという方、リスク管理を考慮したシステム構築を手掛けられているIT企業の方を対象にしています。

Session 1 90分 リスク管理と内部統制

1. コーポレート・ガバナンスと内部統制	3. 監督官庁等が公表した文書等の概略	・コイン投げの事例
2. リスク管理をめぐる外部動向	・監督官庁の組織	・損益認識の事例
・内部統制の世界的な流れ	・監督指針とは	
・日本における導入の背景	・検査マニュアルとは	6. リスク管理のポイント
・内部統制の動向における「COSO」の位置付け	4. 失敗事例から学ぶ	
	5. 「心理バイアス」による合理的判断への影響	

Session 2 90分 運用リスク管理

1. 運用リスクの種類	・個別案件リスク管理	・設定の難しさ
・市場リスク — 金利リスク、価格変動リスク、為替リスク	・市場リスク量 — 市場VaRの計測手法	・VaR以外の定量的リスク把握方法
・信用リスク	・市場VaRの計算 — 分散共分散法	・ストレス・テスト
・取引先リスク	4. 信用リスク管理の具体的な方法	8. 外部委託先管理の具体的な方法
・流動性リスク	・信用VaRの計算 — モンテカルロ法	・デューデリジェンス
2. リスク顕在化の具体例	5. 取引先リスク管理の具体的な方法	・自社運用と同様のモニタリング
3. 市場リスク管理の具体的な方法	6. 流動性リスク管理の具体的な方法	・自社運用とは別のリスク管理
・ポジション管理	7. VaR計算における各種設定	・実地調査
・リミット管理	・保有期間	・主なチェック項目
・市場リスク量管理	・信頼区間	9. 運用リスク管理構造
	・データ取得期間、取得間隔の影響	

Session 3 90分 オペレーショナル・リスク管理

1. オペレーショナル・リスクの種類	3. CSA (Control Self Assessment)	4. オペレーショナル・リスクの定量化
2. オペレーショナル・リスクとは	・日本でのCSA実施状況	・主な定量化手法
・狭義／広義のオペレーショナル・リスク	・CSAによる業務改善サイクル	・リスク・マップと推計手法
・オペレーショナル・リスクの特徴	・評価対象とするリスクの概要	・リスク量定量化の状況
・リスク管理の代表的手法	・なぜCSAを実施するのか	・ボトム・アップによるリスク量定量化の課題
・発生頻度と影響度の把握 (リスクマップ)	・取り組み手順	
・リスク管理の一般的な考え方	・実施における鍵	

Session 4 90分 統合リスク管理

1. 顧客資産と自己資金のリスク管理範囲の違い	・計測方法	・統合リスク管理のフレームワーク
2. 統合リスク管理の概要	・計算事例	・ストレス・テスト
・基本的なコンセプト	・リスク定量化の進展と普及	4. 統合リスク管理のまとめ
・前提認識	・定量化の前提としてのデータ整備	5. 目指すべき自己資金のリスク管理態勢
・発展の経緯	・定量化における留意点	
3. 統合リスク管理の実務	・リスクの受け皿としての資本	



【中級上級編】投資信託約款の読み込み方

— 「法律的根拠」や「制度的背景」、明文化されていない「業界の知見」を学ぶ —

講師 全セッション： 宮園 喜明 元 三井住友信託銀行 受託業務推進部 投信受託課 主任調査役

投資信託約款は、運用会社と信託銀行とがファンドの運用や運営の方針について規定する信託契約ですが、各種法令や投信協会諸規則に従った難解な法律文書であるうえに、読み込むには教科書的知識に加えて実務における経験や明文化されていない業界の知見も必要となります。従って、単に参考書を見ただけでは深い理解に至ることは難しく、多くの方が苦手意識を持たれているのが現状のようです。
本講義では、最初のセッションで約款を読み込むための基本的確に押さえ、業務上よく受ける質問に対して回答するように約款の条文を噛み砕いてご説明します。テキストの構成にあたってもポイントを絞り込み、なんとなく理解したつもりになっているような事項について法律的根拠や制度的背景、また業界の知見をご説明し、「そうだったのか!」と腹落ちしてもらえるよう丁寧に作り込んでいます。
本講義は、実際に約款作成に携わっている方や法務部門の方だけでなく、投信の企画・販売部門、ディスクロージャー、また運用部門の方にもお勧めします。投資信託をパーツパーツではなく、総体的に理解するための貴重且つ有益なプログラムです。

Session 1 105分 約款を読み込むための基本知識

1. 「投資信託約款」とは何か	5. 「証券投資信託」について	【参考】「私募投資信託」について
2. 「投資信託」の「信託」とは何か	6. 「有価証券」について	【参考】「金融機関の経営指標と投資信託運用」
3. 投資信託の全体像	【参考】「法体系」について、「条文の構成」について	
4. 「株式投資信託」と「公社債投資信託」		

Session 2 100分 約款本文からポイントを学ぶ I

1. 信託の種類、委託者及び受託者	5. 受益権の取得申込みの勧誘の種類	10. 受益権の申込単位及び価額
— 委託者指図型投資信託契約の締結	— 金商法の規定と投信法の規定	— 金融商品取引業者と登録金融機関
2. 信託事務の委託	6. 当初の受益者、受益権の分割及び再分割	11. 受益権の譲渡に係る記載又は記録
— 原受託者から再信託受託者へ信託事務の再委託	— 受益権の再分割は社振法による	— 振替口座簿に係る振替機関等とは
3. 信託の目的及び金額、信託金の限度額	7. 追加信託の価額及び口数、基準価額の計算方法 — 純資産総額の計算	12. 受益権の譲渡の対抗要件
— 個別元本方式への変更の影響	8. 信託日時の変化する受益権の内容	— 委託者及び受託者への対抗要件
4. 信託期間	— 分配金はなぜ基準口数当たり同額か	13. 投資の対象とする資産の種類
— 「信託契約解約の日」及び「信託終了の日」	9. 受益権の帰属と受益証券の不発行	— 特定資産および特定資産以外の資産
	— 社振法の適用と振替受益権	14. 運用の指図範囲等 — 第1項有価証券、第2項有価証券の具体例

Session 3 100分 約款本文からポイントを学ぶ II

1. 利害関係人等との取引等	6. 投資信託財産の登記等及び記載等の留保等	10. 信託財産に関する報告等
— 利益相反行為について	— 信託の登記、及び具体例	— 金商法の規定と投信法の除外規定
2. デリバティブ取引等にかかる投資制限	7. 資金の借入れ — 三者協定書、四者間覚書	11. 信託事務の諸費用
3. 信用リスク集中回避のための投資制限	8. 受託者による資金の立替え	— 公募投信におけるファンド監査
4. 信託業務の委託等	— 受託者が行う未収入金の立替え	【参考】「公社債投資信託」について
5. 混蔵寄託	9. 信託の計算期間	【参考】「ファンド併合」について
— 混蔵寄託の内容とその代表例	— 内閣府令における例外規定	

Session 4 100分 約款本文からポイントを学ぶ III

1. 信託報酬の総額及び支弁の方法	5. 信託契約の一部解約	10. 反対受益者の受益権買取請求の不適用
— 未払費用の信託報酬額は消費税相当額込み	— 信託財産留保額とその導入の経緯	11. 運用報告書に記載すべき事項の提供
2. 収益の分配方式	6. 質権口記載又は記録の受益権の取扱い	12. 公告
— 追加型、単位型での違いと、追加型公社債投資信託	— 第三者に対抗する為の質権口記載	— 約款では官報への掲載を公告の手段としない
3. 収益分配金、償還金及び一部解約金の支払い	7. 投資信託契約の解約	【参考】「一人私募」について
— 投信協会規則との整合性	— 「できます」規定と「させます」規定	
4. 収益分配金及び償還金の時効	8. 受託者の辞任及び解任に伴う取扱い	
— 収益分配金5年、償還金10年の根拠	— 旧法信託約款の規定との違い	
	9. 投資信託約款の変更等	
	— 重大かつ非重大かを判別するフロー	

投資顧問考察 —— 活用戦略と将来ビジョン ——

特別企画 6/27 金

講師 全セッション：和村 雅義 エックスネット シニアコンサルタント

投資顧問の仕組みを活用して運用を行うビジネスは多岐に広がっています。本テーマでは、その役割が果す様々なバリエーションについて紹介します。「こんな分野にも投資顧問が活用されているのか!」と、講義を通じて、投資顧問スキームが驚くほど大

きなポテンシャルを秘めていることを実感し、新たなビジネス展開へのヒントを掴んでいただきます。企画部門だけでなく、「投資顧問ビジネスにもっと盛り上がってほしい」と考えている全ての方にお薦めする特別プログラムです。

Session 1 90分 投資助言・投資一任の伝統的ビジネス

まずは伝統的なビジネスのスタディから。投資助言ひとつとってみても、いろいろなビジネス類型があることについては意外に知られていません。

- | | |
|--|---|
| <p>1. 投資助言</p> <p>—— 投資顧問のはじまりは助言。これを活用するだけでも様々なビジネスに展開可能。</p> <ul style="list-style-type: none">・レポート助言・個別銘柄助言・モデルポート助言・投信銘柄助言・運用会社助言 | <p>2. 投資一任</p> <p>—— 投資顧問の典型的な運用形態。ポピュラーな年金等において広く活用されています。</p> <ul style="list-style-type: none">・投信組入運用・個別銘柄運用・バランス運用・特化型運用・オルタナティブ運用 |
|--|---|

Session 2 90分 投資信託ビジネスにおける投資顧問の活用

投資信託の分野においても、投資顧問とは密接に関係しています。外形的には投資信託でも、実は投資顧問として運用しているビジネスストラクチャーは多様に存在します。

- | | |
|--|--|
| <p>1. 国内投資信託における外部委託</p> <p>—— 実は外部委託運用は投資顧問として運用されている。</p> <p>2. 国内投資法人</p> <p>—— 日本版会社型投資信託。この運用も投資顧問。</p> <ul style="list-style-type: none">・不動産ファンド・インフラファンド・ベンチャー支援投資法人 | <p>3. 外国投資信託</p> <p>—— 多くは会社型投資信託。これらはさらに多様なビジネスに拡大中。</p> <ul style="list-style-type: none">・会社型投信・上場投信 (ETF 等)・ヘッジファンド・マネージャー・オブ・マネージャーズ・持ち込み外国投信 |
|--|--|

Session 3 90分 投資事業組合、LPS、プライベート・エクイティにおける投資顧問の展開

投資事業組合、LPS、プライベート・エクイティといった分野も投資顧問の世界。これらも投資運用業、助言業として運用を行っているビジネスです。様々なタイプの器によって投資顧問の仕組みが活用されています。

- | | |
|---|---|
| <p>1. 国内投資事業組合</p> <p>—— 少し毛色の異なる投資顧問ビジネスの世界をご紹介します。</p> <p>2. LPS (リミテッド・パートナーシップ)</p> <p>—— 海外投資事業組合。この仕組みによって、さらに足場が広がっていく。</p> <p>3. プライベート・エクイティ</p> <p>—— ここでも様々な形態が。</p> | <ul style="list-style-type: none">・ベンチャー・キャピタル・バイアウトファンド・再生ファンド・ディストレスファンド |
|---|---|

Session 4 90分 ラップ、SMA での投資顧問の展開

運用主体はアセットマネジメントではなく主に証券会社ですが、証券会社が投資顧問会社を兼営することによって投資顧問ビジネスを展開。証券の世界においても投資顧問は拡大中です。

- | | |
|---|---|
| <p>1. ラップ</p> <p>—— 証券会社の投資顧問ビジネスとは？</p> <ul style="list-style-type: none">・投資助言投資信託ラップ・投資一任投資信託ラップ・投資一任個別銘柄ラップ | <p>2. SMA</p> <p>—— 富裕層を対象にした展開。</p> <ul style="list-style-type: none">・ラップと SMA の違い・富裕層へのプライベートバンキング・投資顧問ビジネスの注目ポイント |
|---|---|

未開講テーマについての次回予告

リーガル&コンプライアンス 【基本スキル編】

次回開講予定
2025年9月

講師 全セッション：小野 高央 アセットマネジメントOne リスク管理本部 法務グループ長 弁護士

資産運用立国が掲げられている今、年金や家計金融資産等の運用を担う資産運用会社は、法令を遵守するだけでなく、社会的責任、時に道徳的責任までもが問われ、これらを果たするための高度なガバナンス・コンプライアンス態勢が求められています。しかしながら、適用される法規制や運用手法・投資対象資産の変化・高度化・多様化は著しく、かつ受託者責任等も課され、

対応は容易ではありません。本講義では、資産運用業務の本質に基づいて、法理論・リスクコントロールの基礎等、リーガル&コンプライアンス・オフィサーが必要とする基本スキルを身につけることができます。（注：投資運用業の中の投資一任業務と、投信委託業務をベースに解説します。）

Session 1 120分 リーガルの基本スキル

- | | | |
|--|---|--|
| <p>1. 法規制の構成と特徴</p> <ul style="list-style-type: none">・投資運用業に係る法規制の構成と範囲・業者に適用される主要法令・顧客に適用される主要法令・法令理解のための基礎⇒ 法律・政令 (施行令)・省令 (施行規則)⇒ 公法と私法⇒ 法概念の相対性⇒ 特別法と一般法⇒ 強行法規と任意法規・法令以外の理解のための基礎⇒ 監督指針、協会自主規制ルール、等 | <p>3. 資産運用業者に適用される法令</p> <ul style="list-style-type: none">・投資運用業・投資助言・代理業・第二種金融商品取引業 <p>4. 代表的な義務</p> <ul style="list-style-type: none">・善管注意義務⇒ 注意義務とは⇒ 民法上の善管注意義務、会社法上の善管注意義務、金商法上の善管注意義務⇒ 法概念の相対性・忠実義務⇒ 忠実義務とは⇒ 忠実義務の理解—— 善管注意義務との関係 | <ul style="list-style-type: none">⇒ 投信約款と忠実義務⇒ 投信における約款の法的性質・説明責任⇒ 説明責任とは⇒ ヴィークルによる相違・誠実・公正義務 <p>5. 資産運用業者の法務部の実務</p> <ul style="list-style-type: none">・業務範囲の確認・防衛法務と戦略法務・顧問弁護士との付き合い方・社内弁護士の活用・予算管理・Legal Tech |
|--|---|--|

Session 2 120分 コンプライアンスの基本スキル

- | | | |
|--|--|--|
| <p>1. 受託者責任の基本</p> <ul style="list-style-type: none">・受託者責任とは・なぜ受託者責任が生じるのか？—— 発生のメカニズムが分かれば対処も分かる⇒ 金融商品取引業者等における受託者責任⇒ 自己執行義務⇒ 運用外部委託と監督責任⇒ 「善管注意義務」と「慎重な専門家の注意」・開示の目的と効果⇒ 民法上の報告義務—— 受任者による報告 | <ul style="list-style-type: none">⇒ 依存度と開示の関係⇒ 開示頻度と信頼度の関係 <p>2. コンプライアンスの基礎</p> <ul style="list-style-type: none">・コンプライアンスとは何か—— 狭義のコンプライアンスと広義のコンプライアンス・コンプライアンスに係る環境変化 <p>3. コンプライアンス態勢</p> <ul style="list-style-type: none">・態勢構築の目的・態勢構築の手順 (一例)・連携体制の構築・最近の当局の動き | <p>4. 近年企業に求められるコンプライアンス</p> <ul style="list-style-type: none">・CSR、公益通報、コンダクトリスク・ビックモーター事件、ENEOSホールディングス、タムロン…⇒ ダスキン株主訴訟 (大阪高判平成 18 年 6 月 9 日) <p>5. 資産運用業におけるコンプライアンスにかかる最新の論点</p> <ul style="list-style-type: none">・ミドル・バックオフィス業務の外部委託 |
|--|--|--|



未開講テーマについての次回予告

※ 2025年3月時点での予定です。時期の変更、新規テーマの設定は適宜ございます。

外国籍投信関連業務【基礎・導入編】

国内私募と公募用ファンドだけではなく FoF's の投資対象として重要になった外投について、その設立地やスキーム、目論見書の作成、商品開発にあたっての規制やオペレーションなど、基本的なところを一通り学習します。

次回開講予定
2026年3月

外国籍投信関連業務【実務・応用編】

基礎編のアドバンス講義として、設立地による法体系の違い、主要スキーム、オペレーション上の注意点、タームシート作成、償還、現地の法制度変更対応など幅広く実務全般を学びます。貴重な実体験によるトラブル事例にも触れます。

次回開講予定
2025年9月

ESG投資の実務

グローバル ESG 債券投資では、スマートベータ／パッシブ志向とインパクト投資の2極化に向かう最新のトレンドについて解説。最後の ESG 株式投資のセッションは本場欧州ロンドンから生配信にて最先端をご紹介します。

次回開講予定
2025年9月

オルタナティブ投資関連業務 【プライベート・エクイティ・ファンド編】

投資家、運用者、ゲートキーパーとしての豊富な経験を踏まえて、仕組みなどの基礎から、リスク管理の方法など実務まで網羅的に解説。旬なトピックとして、インフレリスクや ESG 投資との関係について紹介します。

次回開講予定
2025年9月

オルタナティブ投資関連業務【ヘッジファンド編】

ヘッジファンドについて体系的に理解します。戦略分類ではそれぞれのアルファのとり方など特徴づけ、FoHF やマルチ戦略 HF は体系的に整理してわかりやすく解説。実務面では評価時のファンドをみるポイントについて詳しく説明します。

次回開講予定
2025年9月

オルタナティブ投資関連業務 【海外インフラストラクチャーファンド編】

グローバルに展開するインフラファンドを俯瞰しながら、プロジェクトファイナンス・インフラデットというアセットクラスに特化した投資戦略、趨勢と動向について詳説します。

次回開講予定
2025年12月

オルタナティブ投資関連業務【不動産ファンド／J-REIT 編】

アセットクラスとしての不動産の考え方から、各種投資指標の見方、市場動向の読み方、リスク管理の方法、REIT の仕組みやその運用実務まで詳しく解説。ESG などの最新トピックも含め、網羅的に学ぶことができます。

次回開講予定
2025年12月

実務で使われる金融工学の基礎

ファイナンス理論との接点からマルチファクターモデルまで、サンプルを用いながらわかりやすく説明。講義に使うエクセルのツールはご提供。バーラモデルやクオンツ運用に関心ありながらも難しいイメージをお持ちの方にお奨めです。

次回開講予定
2025年9月

リサーチ・アナリスト業務【企業価値分析基本編】

財務分析、企業訪問からポートフォリオ分析、ファンドのパフォーマンス評価まで多岐にわたるアナリスト業務の実務を体系的に学ぶ機会は限られていました。本講義は、アナリストが行う企業分析業務を対象とし、まず決算書、財務分析に関する基礎知識から始め、企業インタビューの手順、業績予想、企業価値評価の基本的な手法を解説し、最後に全般的な演習を行い、受講者の理解を深めます。

次回開講予定
2025年9月

リサーチ・アナリスト業務 【企業価値評価・投資戦略のための無形資産評価手法】

重要とされながらも、ほとんど手付かずになっている知的財産・特許情報について、入手・読解するノウハウを身につけ、企業の中長期戦略、または市場で認識されていない業界トレンドを推し量る力を高めます。定量スコアを用いたバリュエーションへの落とし込み方法など実務への応用まで、体系的かつ網羅的に学んでいきます。

次回開講予定
2025年12月

【初級中級編】投資信託約款の読み込み方

投信約款は投資信託の根幹ともいえますが、一般的に体系立って学習する術がないこともあり、分かり辛く、とっつきにくいと敬遠されるきらいがあります。本講義では、苦手意識を和らげるために実際の約款を教材の柱に据え、基本をきちんと押さえた後、実務上でよくある質問に答えるように条文を噛み砕いていく、腑に落ちるような説明をしていきます。

次回開講予定
2025年9月

【中級上級編】投資信託約款の読み込み方

本講義では、初中級編より講義時間を拡大し、投資信託の根幹である投信約款を教材の柱に据え、実務上でよくある質問への回答を踏まえ、条文を詳細に解説していきます。

次回開講予定
2025年12月

オンライン受講(ライブ配信)申し込み手順



お申し込みは日経ビジネススクール

日経メディアマーケティング株式会社専用Webサイトから

ファンドマネジメント講座

検索

<https://school.nikkei.co.jp/special/fundmanage-mm/>

日経メディアマーケティング株式会社は、日経ビジネススクール 金融プロフェッショナルコースの
ファンドマネジメント講座/インベストメント・バンキング講座の運営(一部)ならびに販売を担う営業会社です。

- ▶ お申し込み受付後、事務局から確認のメールをお送りします。
- ▶ お申し込み・ご入金について
 - 各講座指定の方法での入金をお願いいたします。
 - クレジットカード決済は、領収書の発行はできません。代わりにクレジットカード会社が発行する請求明細または申込完了メールおよびマイページの「決済履歴」からダウンロードできる「利用料お支払い明細書」をご利用ください。「利用料お支払い明細書」には、インボイス番号およびお支払金額が記載されています。これらの書面が、勤務先などで
の精算にご使用いただけるかは、お客様自身でご確認ください。
 - 法人宛の請求書でのお支払いをご希望の場合は、各講座の申込ページから「複数名受講・代理申込みの方」を選択してお申し込みください。

お申し込みから受講までの流れ

1. お申し込み後、講義開催の前日までに受講者用配布資料のダウンロード先を事務局からメールでご案内します。
※講義によっては、配布資料がない場合、また事前には配布せず事後にダウンロードいただく場合もあります。
2. 講座実施直前(あるいは当日)に、事務局からメールでZoomへのアクセス方法をお送りします。それに沿い、遅くとも講座開始の5分前には接続を開始し、通信状況を確認してください。通信状況を確認されましたら、必ずマイクをミュートにして講義開始までお待ちください。事前配布の資料は、講義開始までにダウンロードをお願いします。
3. ライブ配信講義での講師への質問方法、および講師からの質問に対する反応(挙手など)については、Zoom機能の簡単な使い方とともに、講義開始前にZoom画面でご案内します。また、グループに分かれて意見交換などワークを行う場合があります。その際、Zoomの「ブレイクアウトルーム」を使い、少人数のグループに分かれていただき、各グループごとにワークを進めていただきます。なお、講義中に発言される場合は、ご自身でZoomのミュートを解除してお話ください。
4. 講義終了後、事務局からメールにて、アンケートへのご協力をお願いについてご案内します。
※ライブ配信の場合、通信状況やその他の理由により音声途切れ、画像や音声乱れる、つながらない、途中で回線が切れてしまうなどのトラブルが発生する可能性があります。あらかじめご承知おきください。
※配信側の通信状況や不具合で接続が安定しない、回線が落ちてしまうなどの場合は、緊急でZoomの接続先を変更することがありますので、講義中は事務局からのメールを受信できるようにしておいてください。

注意事項・その他

<禁止事項>

「日経ビジネススクール利用規約(個人)」記載の内容に加えて次の行為を禁止します。

- 本講座の録音・録画
- 資料の無断複製、第三者への提供
- 本講座のアクセス情報(IDとPW)の第三者との共有、使い回し

<その他注意事項>

- 講座のお振り替えはお受けいたしかねます。
- 講義の内容や資料等の著作権については「著作権について」をご確認ください。

日経ビジネススクール利用規約(個人):

<https://school.nikkei.co.jp/nn/info/tos.html>

著作権について:

<https://school.nikkei.co.jp/nn/info/copyright.html>

解約について

やむを得ず解約される場合は、受講開始日の3営業日前の15:00までに、運営事務局までご連絡ください。解約される場合は、返金手数料2,200円(税込み)をお支払いいただきます。お支払い済みの受講料から返金手数料を控除した金額をご指定の銀行口座に振り込む方法で返金いたします。それ以降の解約はお受けいたしかねます。

- 運営事務局の営業日は、土日祝、国民の休日、年末年始(12/27~1/4)を除く日となります。

お問い合わせは、こちらまで

Tel: 03-6812-8679

Email: nikkei-bs@nex.nikkei.co.jp

日経ビジネススクール運営事務局
株式会社日経イベント・プロ内

受付時間: 営業日の9:30~17:30

<営業日> 土日祝、国民の休日、年末年始(12/27~1/4)を除く日

⚠ 講座開催における個人情報の取り扱いについて

本講座の受講には「日経ビジネススクール利用規約(個人)」が適用されます。ご登録いただいた個人情報は日本経済新聞社および日経メディアマーケティングがそれぞれ直接取得し、それぞれのプライバシーポリシーに従って取り扱います。

● 日本経済新聞社:「日経IDプライバシーポリシー」及び「日経ビジネススクールにおける個人情報の取扱いについて」

● 日経メディアマーケティング:「個人情報保護について」

● 日経ビジネススクール利用規約(個人): <https://school.nikkei.co.jp/nn/info/tos.html> ● 日経IDプライバシーポリシー: <https://www.nikkei.com/lounge/privacy/privacy.html> ● 日経ビジネススクールにおける個人情報の取扱いについて: <https://school.nikkei.co.jp/nn/info/privacy.html> ● 日経メディアマーケティング: 個人情報保護について: <https://www.nikkeimm.co.jp/privacy/>